

堤正勝編  
兒訓必讀

卷六

176  
3  
130

大日本教育會館  
一九四一  
函架  
四號  
三五  
冊六

明治十九年六月四日 内務省 印刷

兒訓必讀卷六

東京

隄

正勝編

第二

町村

に對する義務

○同町同村の人。互に救ふべき。

義務あるものとせり。朱子語録

○同ト村里に住む人ハ。同ク生業をいとぢみ。村と出る小毛。歸るに

毛。必ともなひ親むなり。孟子

○斯く親みあつきゆゑ。盗難火難あるときい。力をつくして助け。病む人あれば。互に扶け救ふこと。一家の如くなるべし。同上

○人間の樂い。人の苦きを救ふにあり。富る人い。廣く人とめくむべし。

一。初學訓

○老てたよりなき者。幼くして父母なき者と。心を用ゐて。あはれむべし。同上

○往き来にさはる物を取すて。小溝ふみ石と置き。又いこれに小橋とかけ。往來の便利をなすい。

貧き人もなし得べし。大和俗訓

○世の利益は。共有の物にして。これ一人の物ならず。人とこれを共にして。其利を分つべし。同上

○利を一人に得むとされば。争ひ必興り。反てその身を害するなり。義を以て得たる利は。利ありて害

なり。同上

○人と物と分つとき。双方同く分つべし。人に寡くあたへ。己多きを求るなからむ。

曲禮

陳平肉を平等に分つ



○年少き人なりとて。之を侮り。又貧賤の人を見て。之と輕むずる。甚好からぬ事と知れ。林子平父兄訓

○人と助ることは。己の分限に志たぐひ。財を出さべし。斯く人を助ることい。人に交る道なればなり。

家道訓

○諺に曰く。なさけい味方なりと。此うろい。ふさけ深き人を多く人を助るゆゑ。衆人に思われて。助けを得ることといふ。名將言行録

○子孫の爲を思ふ。人のために益ある事と。人知れを行ふべし。其子孫に福ひあること。金錢と遺を

にまさる。司馬光

○わが身を愛する事の之知て人を愛せざるい。人たる道小あらず。務て人の害をのぞき人に益つることをせよ。家道訓

○わが身此事にい。無益の費を蓄み人と救ふことふは少くも蓄む

心なき之と仁と稱するあり。倪思

○財寶を蓄みてい。善いなく難し。無益に財を費は人と救ふことに。志をければあり。家道訓

○人を恵こし事い。心よ念もざるべし。人に恩を受しことい。心に忘るをうらず。朱子治家格言

第三 國家に對する義務

○天地もむかひに變らず。日月も光りと改めず。仰ぎて尊と奉るべき。日嗣をうけ給ふ。皇になんおそくす。神皇正統記

○亂世の苦みと知らず。四民共に業とたのしむ。太平の世にきめる

い。此世と治免たまふ。君の恵みなり。初學訓

○君の恵とい。天地の恩にひとし。四民共に忘るべからず。同上

○國法をれそれ守り。上たる人の行ひと。國家の政とい。そしるべからず。上をそしり。國政をそしるは。

大なる不敬あり。つゝしむべし。家  
道訓

○君に仕へて。職をうくる者い。

君恩ふ報むことと。心に忘れざる

べし。韓子

○臣下い。忠節をつくり。君に事ふ

ると以て。志とすべし。翁問答

○臣としてい。我身と。我ものよせ

ずして。私を忘れ。君に忠をつくす

べし。大和俗訓

○少しにても。君をゆるがせにす

る。心を崩さもののい。必亂臣となる。

神皇正統記

○生業に不足なく。財小富る人に



して。國家の事につとめ。危難ふあ  
たる人。尤世よ貴むる。西國立志編

○農夫たる者。その業をつとめ。  
年貢をともしやく納め。公役に怠らざ  
る。國に對する務なり。初學訓

○年貢を全く納むれば。残り米  
少くとも。心の中は樂み。貯多

きにまされるなり。朱子家訓

○國のために。財を生むる。職業  
の勉強より。大なる者なり。西國立志編

○邦國の盛むる。人民勉強の  
力と。正直の行ひとに由る。同上

○人の手本となる程に。職業と勉  
強。行ひを正くすれば。大に他人

と奮發せしめ。國の治化をたすく。  
同上

○わが生きし國と。重むる人  
情なり。他國の人より見れば。開け  
ぬ國と思ふとぞ。本國の人に於て  
い。各これを大切と思ふ。之を報國  
の心といふ。童蒙といへ草

○報國の心あれば。本國に領分と。  
定りたる地面とば。必大切守む  
と思ふ。同上

○國中一般の人。誠にこの心あれ  
ば。互にその力を合せ。情義自らし  
たり。み。外國の敵とふせぐに。必勇  
氣を生ず。同上

○斯くもわが國と重む。わが國の  
人を親み。わが國の幸福といのれ  
ば。わが國を守るためは。一命と  
もなげうつべし。同上

○その政府に對し。深切の心とい  
たくえ。わが生れし國の政府ふま  
ばなり。同上

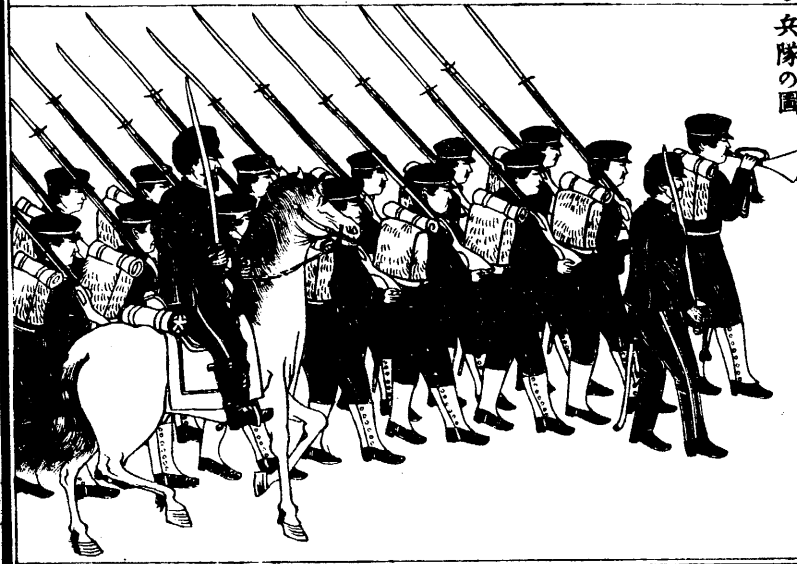
○わが國の産物とひらき。貿易と  
盛む。國の利益をよかるも。わ  
が國の爲に。繁昌を願ふ。忠なり。  
同上

○國家に對する務の中。兵役にあ  
たる。最貴き務なり。兵役要訓

○その故。身と以て國をまもり。

國の人民をして  
安寧ならしむれ  
ばあり。同上

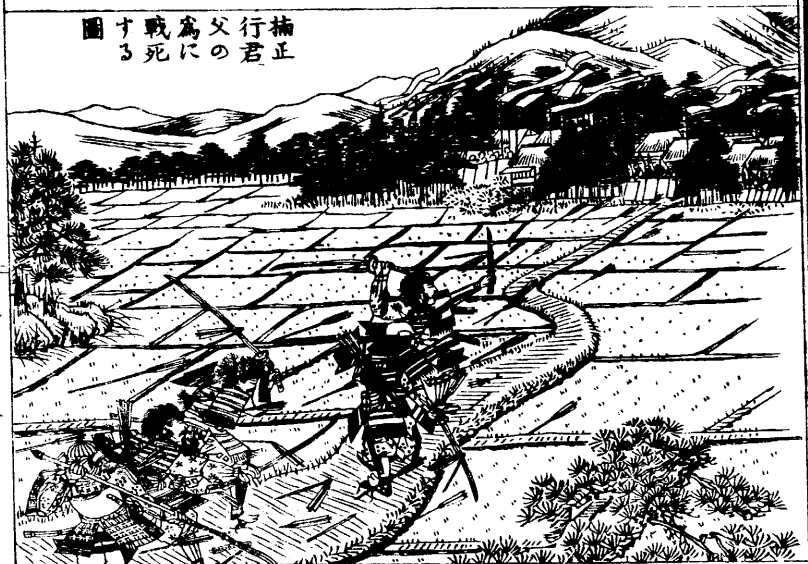
○よく兵役と勤  
れば。多くの人に  
敬もれ。榮譽を受  
ること。世に比す



兵隊の圖

べき者なり。同上

○拿破列翁曰く。  
人と生れて。榮譽  
と得る能はざれ  
む。生れざるに志  
かず。拿破列翁談話集  
○戦場に臨みて



楠正行の父爲る戦す

い。功名をあらそすべし。若し見苦  
しき戦ひをなせば。君よ不忠い。  
ふまでもふく。父母にえ不孝とす。

曾子

○愛國の心は。常に養ひたくもへ  
て。争亂あるときふ臨み。勇み進む  
で行ふべし。同上

○凡軍人い。忠節をつくす事を。己  
の本分ととべし。勅諭

兒訓必讀卷六終

K1101-167

白話必讀

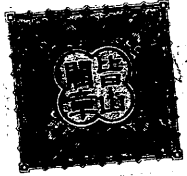
卷一

三

金港堂

明治十九年二月廿六日版權免許

價五錢



編者并  
出版人

東京府士族

堤

正

勝

麹町區飯田町六丁目十九番地

東京本町三丁目十七番地

金港堂原亮三郎本廬



大賣捌

大阪北久寶寺町四丁目

金港堂原亮三郎支店

岐阜

金港堂支店

賣捌

各府縣下代理大賣捌所